三島保育所　病児・病後児保育室
くるみ保育室

げんき！！ すくすく通信

R５．６月号

こんにちは、病児・病後児保育室『くるみ保育室』です。Ｒ５年度がスタートして３ヶ月が経ちました。今年度も保護者の皆様が安心して子育てとお仕事を続けられるよう、また、お子さんにとって楽しく過ごせる病児保育室であるように職員一同努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。４月より、Ｒ５年度の登録も随時受け付けておりますので、まだの方はお待ちしております。まずは、前年度の利用状況や利用の流れについてお知らせしたいと思います。

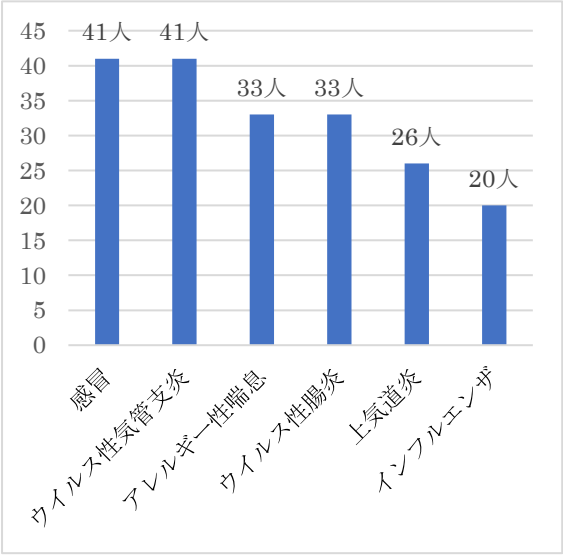
令和４年度のくるみ保育室利用報告

＜１＞総合利用人数（延べ）　**３５１人**

＜２＞登録者数　**１１６人**

＜３＞初利用者数　**５５人**

＜４＞症状別利用者数（上位６つの症状）



＜５＞年齢別利用者数（計３５１人）

年齢	人数
１歳（０歳児）	６９人
２歳（１歳児）	１０７人
３歳（２歳児）	５７人
４歳（３歳児）	５０人
５歳（４歳児）	５５人
６歳（５歳児）	３人
７歳以上（小１～小３）	１０人

保育・看護中にお預かりしているお子様の熱が急に上がったり、呼吸が荒くひどそうだったり、痙攣などで状態が悪化している場合は、保護者の方に連絡しお迎えをお願いすることがあります。また、緊急時には救急搬送する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

保育室の利用の流れ

① 利用登録

お子様が満１歳になられましたら、利用登録することが出来ます。事前に登録しておかれると、当日の受け入れがスムーズになります。

② 利用前確認・予約

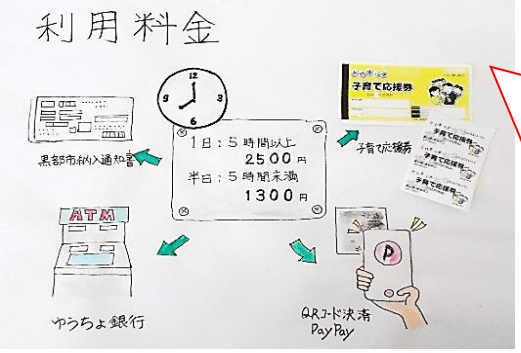
くるみ保育室に電話し、利用希望日の予約をしていただきます。当日の利用も可能ですので、まずは電話で確認してみてくださいね。空き情報は**『とみいくフレフレ』**で確認できます。

③ 医療機関受診

予約が取れた場合はかかりつけ医のお医者様を受診し、**診療情報提供書**を記入していただきます。

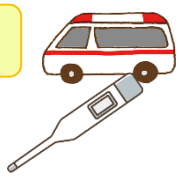
④ 利用当日の受け入れ

利用当日に、１）利用登録書（未登録の方のみ）、２）利用申請書、３）診療情報提供書を持参して、くるみ保育室に来ていただきます。診療情報提供書とお子様の状態を確認して、受け入れをします。（病状によっては、受け入れをお断りする場合があります。）その他の持ち物についてはＨＰをご確認ください。



納付書や子育て応援券以外に、**ペイペイ**や**ゆうちょ銀行**でのお支払いも可能になりました！！

体温で体調チェック！！



検温のポイント

- いつも同じ測り方をする
  ※同じ時間帯で測りましょう
- 汗を拭く
- 下着に触らない
  ※汗や下着などに当たって熱の伝導率が異なってしまい、正しく検温できない可能性があります。
  （オムロン HP より）

梅雨時をのりきろう！

気温も湿度も高くなるこの時期、雨で外遊びやお散歩のできない日も多くなり、室内で過ごす時間が増えてきます。大人にとっては憂鬱な雨の日も子どもにとっては傘をたたく雨音、長ぐつ、水たまり…と発見や喜びでいっぱいです。この時期も体調良く過ごしていきたいですね。

カビ　カビを防いで気管を守ろう

湿度の高い時期に要注意！！

湿度の高い時期はカビやダニが増えやすく、気管支喘息の発作が起こりやすい時期です。

ポイント　換気をしたり、掃除機をかけたりして、室内のハウスダストを減らし、除湿器を使ってアレルゲンを減らしましょう。ほこりの溜まりやすいエアコン、空気清浄機のフィルターは掃除して清潔に保ちましょう。

食中

この季節は食中毒にも注意！！

気温と湿度が高くなると、食中毒が発生しやすくなります。食中毒の主な原因である細菌は、気候が暖かく、湿気が多くなる梅雨から夏にかけて増殖が活発になります。３ つのポイントを守って食中毒を防ぎましょう

３つのポイント

① 細菌を食べ物に『つけない』
手洗いと器具の洗浄、消費期限を守る、生ものと分けて扱う！

② 食べ物に付着した細菌を『増やさない』
10℃以下か 65℃以上では菌が増えにくい！すぐ、冷蔵庫へ

③ 食べ物や調理器具に付着した細菌を『やっつける』
中心温度７５℃で１分以上の加熱を！

生活リズムがくずれる？

ジメジメして湿度が高いと大人もスッキリしませんよね。子どもたちも一緒で、雨で外に出て思いっきり遊べなかったり、ベタベタした汗であせもができてお肌トラブルになったり…ストレスから生活リズムがくずれ、病気にもかかりやすくなります。主にかかりやすい病気は、**急性胃腸炎**、**ウイルス性腸炎**、**気管支炎**、**気管支喘息**などです。こまめな水分補給と三食の食事、早寝早起きで良質な睡眠と休息をとり、生活リズムを整え、夏に向けて体力をつけていきましょう！！

【R5. 4･5月の利用状況】
合計　92名（延べ人数）

主な病気…感冒、アレルギー性喘息、アレルギー性鼻炎、急性上気道炎、ウイルス性気管支炎、インフルエンザ、ウイルス性腸炎など。

ヘルパンギーナに要注意！！

県内でヘルパンギーナ患者が急増しており、ニュースで目にした方も多いと思います。ヘルパンギーナにかかると４０度近くの高熱が出て、口腔内に水疱ができます。また、のどの奥が発赤状態となり十分な飲食ができず、脱水症状を起こすこともあるため、小さなお子さんに接する大人の方も注意が必要です。

予防方法は？…**石けんと流水で手を洗うことが大切です。**症状がなくなった後も便と一緒にウイルスが排泄されるため、おむつ交換後の手洗いや調理・食事前の手洗いを徹底し、タオルの共有は避けましょう。**アルコール消毒は効果が弱く、タオルや玩具の消毒には塩素系漂白剤や熱湯**を用いて行いましょう。